

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成27年5月28日 (2015.5.28)

【公開番号】特開2015-71598(P2015-71598A)

【公開日】平成27年4月16日 (2015.4.16)

【年通号数】公開・登録公報2015-025

【出願番号】特願2014-205331(P2014-205331)

【国際特許分類】

A 6 1 K 39/00 (2006.01)

A 6 1 P 37/04 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 6 1 K 35/12 (2015.01)

A 6 1 K 39/21 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 P 31/18 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 39/00 Z N A G

A 6 1 P 37/04

C 1 2 N 15/00 A

A 6 1 K 35/12

A 6 1 K 39/21

A 6 1 K 39/395 C

A 6 1 K 39/395 L

A 6 1 P 31/18

A 6 1 K 39/395 U

【手続補正書】

【提出日】平成27年3月11日 (2015.3.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

樹状細胞（DC）特異的抗体又はその断片と、1又は2以上のタンパク質分解部位を除去することによりタンパク質分解されにくくなっている改変 G a g 抗原とを含む、抗原提示細胞による抗原提示の有効性を増加させるための抗体 - 抗原複合体であって、前記 DC 特異的抗体又はその断片と、前記改変 G a g 抗原との間に、セルロース分解生物に由来するリンカー配列から選択される 1 又は 2 以上の新たなグリコシル化部位を含む可動性リンカーをさらに含み、前記可動性リンカーが、配列番号 4 のアミノ酸配列からなるペプチドである、前記抗体 - 抗原複合体。

【請求項 2】

抗原提示細胞が樹状細胞である、請求項 1 に記載の抗体 - 抗原複合体。

【請求項 3】

DC 特異的抗体又はその断片が、コヘシン / ドッケリン対の片方に結合し、改変 G a g 抗原が、前記コヘシン / ドッケリン対の相補的な片方に結合して複合体を形成する、請求項 1 又は 2 に記載の抗体 - 抗原複合体。

【請求項 4】

D C 特異的抗体又はその断片がヒト化されている、請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の抗体 - 抗原複合体。

【請求項 5】

抗体 - 抗原複合体の抗体軽鎖を除く部分が、配列番号 3、9、10、11、12、13、14、15、16、又は 31 から選択される、請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載の抗体 - 抗原複合体。

【請求項 6】

D C 特異的抗体又はその断片が、M H C クラス I、M H C クラス II、C D 1、C D 2、C D 3、C D 4、C D 8、C D 11 b、C D 14、C D 15、C D 16、C D 19、C D 20、C D 29、C D 31、C D 40、C D 43、C D 44、C D 45、C D 54、C D 56、C D 57、C D 58、C D 83、C D 86、C M R F - 44、C M R F - 56、D C I R、D C - A S G P R、C L E C - 6、C D 40、B D C A - 2、M A R C O、D E C - 205、マンノース受容体、ランゲリン、D E C T I N - 1、B 7 - 1、B 7 - 2、I F N - 受容体及び I L - 2 受容体、I C A M - 1、F c 受容体、L O X - 1、並びに A S G P R に特異的に結合する抗体から選択される、請求項 1 ～ 5 のいずれかに記載の抗体 - 抗原複合体。

【請求項 7】

請求項 1 ～ 6 のいずれかに記載の抗体 - 抗原複合体を含むワクチン。

【請求項 8】

D C 特異的抗体若しくはその断片又は改変 G a g 抗原に結合して抗体 - 抗原複合体の一部を形成している N e f 抗原をさらに含み、G a g p 17、G a g p 24、及び N e f に対する H I V 特異的 T 細胞免疫応答を誘導することができる、請求項 7 に記載のワクチン。

【請求項 9】

改変 G a g 抗原及び N e f 抗原が融合タンパク質を構成する、請求項 8 に記載のワクチン。

【請求項 10】

抗体 - 抗原複合体が、改変 G a g 抗原と N e f 抗原との間に、セルロース分解生物に由来する 1 又は 2 以上の新たなグリコシル化部位を含む可動性リンカーをさらに含む、請求項 8 又は 9 に記載のワクチン。

【請求項 11】

抗体 - 抗原複合体の抗体軽鎖を除く部分が、配列番号 3、9、10、11、12、13、14、15、16、又は 31 から選択される、請求項 8 ～ 10 のいずれかに記載のワクチン。

【請求項 12】

樹状細胞の有効性を増加させるための方法に用いるワクチンであって、前記方法が、患者の樹状細胞を単離すること、

活性化量のワクチンに前記樹状細胞を曝露すること、及び

抗原が負荷され活性化された前記樹状細胞を、前記患者に再導入すること

を含み、

前記活性化量のワクチンが、改変 G a g 抗原に結合して抗体 - 抗原複合体を形成している D C 特異的抗体又はその断片と、前記 D C 特異的抗体若しくはその断片又は前記改変 G a g 抗原に結合して抗体 - 抗原複合体を形成している N e f 抗原とを含み、G a g p 17、G a g p 24、及び N e f に対する H I V 特異的 T 細胞免疫応答を誘導することができるワクチンであって、

前記改変 G a g 抗原が、1 又は 2 以上のタンパク質分解部位を除去することによりタンパク質分解されにくくされており、かつ前記抗体 - 抗原複合体が、前記 D C 特異的抗体又はその断片と前記改変 G a g 抗原との間に、セルロース分解生物に由来するリンカー配列から選択される 1 又は 2 以上の新たなグリコシル化部位を含む可動性リンカーをさらに含む

。

請求項 8 ～ 1 1 のいずれかに記載のワクチン。